

# 「第26回甲州大月 阿波踊り大会」開催

ACTIVE KUMIAI

夏の「大月市」のイベントとしてすっかり定着した「第26回甲州大月阿波踊り大会」が、8月1日（土）2万人の来場者により盛大に開催された。このまつりは1984年の夏、大月の市民まつりを目指した「かがり火市民まつり」とともにスタートし、地元商店街の大月商店街協同組合（理事長小俣孝）の一大イベントとして



阿波踊り風景

熱心に取り組んできたもの。当日は、まつり街道各所に「かがり火」が焚かれ、神輿愛好会が勇ましく街道を練り歩き、この日のために練習と準備を重ねてきた連による阿波踊りの乱舞が練り広げられまつりを盛り上げた。甲州街道を全面通行止めとしたメイン会場となる商店街では、組合員のすべての商店が店内の照明を灯し、まつりの賑やかさを演出するとともに給水所を設置し、麦茶で踊り子たちの喉を潤してもてなした。この日商店街は、真夏の熱気とともに夜遅くまで賑わった。

今年で、26年を迎えたまつりではあったが、昨今の経済情勢の悪化等により開催自体危ぶまれた。経費節減、運営方法や催しの見直しにより一部中止したイベントもあ



元気に踊る子供たち

ったが、240名のボランティア参加があるなど行政、地域住民が一体となった、手作り感あふれる新たなスタイルのまつりとなった。「例年と違い、このヶ月は組合員は協力要請と準備で仕事にならなかった。しかしかえって組合の連帯感が強まりました。」と小俣理事長は振り返る。